

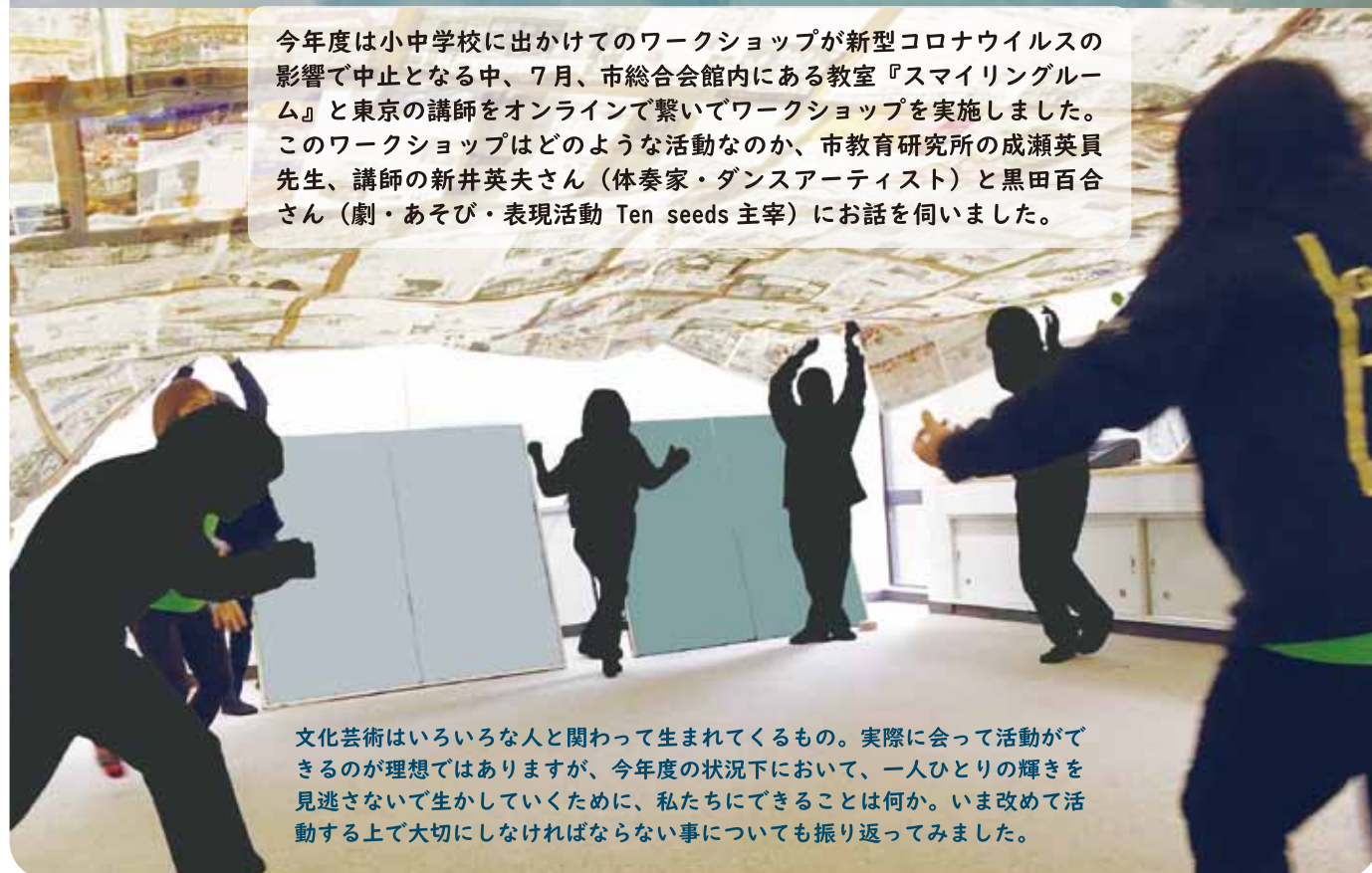


『自分らしさを見つめ取り戻すために』

～学校に行きたくても行けない子ども達のための～

スマイリング ワークショップ

今年度は小中学校に出かけてのワークショップが新型コロナウイルスの影響で中止となる中、7月、市総合会館内にある教室『スマイリングルーム』と東京の講師をオンラインで繋いでワークショップを実施しました。このワークショップはどのような活動なのか、市教育研究所の成瀬英員先生、講師の新井英夫さん（体奏家・ダンスアーティスト）と黒田百合さん（劇・あそび・表現活動 Ten seeds 主宰）にお話を伺いました。



文化芸術はいろいろな人と関わって生まれてくるもの。実際に会って活動ができるのが理想ではありますが、今年度の状況下において、一人ひとりの輝きを見逃さないで生かしていくために、私たちにできることは何か。いま改めて活動する上で大切にしなければならない事についても振り返ってみました。

上) 新井英夫さんのワークショップの様子 下) Ten seedsさんのワークショップの様子

可児市の『スマイリングルーム』という教室について、まず成瀬先生あらためて教えて頂けますか。

成瀬 スマイリングルームは、さまざまな理由で学校に行くことが出来なくなってしまう子ども達が、自分を見つめて自分らしさを取り戻して、学校復帰ができるように支援していく、子ども達の居場所になる教室です。現在、通室してくる子ども達の人数は日々さまざまですが、平均して一日あたり10名程通ってきています。一人ひとりが自信を持って自分の人生を歩んでいけるように、それをお手伝いする事が私たちの役割であると常々思っています。

通ってくる子ども達は、自分を表現する事、相手とコミュニケーションをとる事を苦手と感じている子が多いです。苦手な事を少しでもクリアして、良さを伸ばしてあげる。ワークショップには、実はここについて一番期待しています。

スマイリングルームでは、毎年一年を通して10回程ワークショップをさせて頂いています。実施にあたっては現場の先生・講師の皆さんと相談しながら展開を考えていますが、どのような所に重点を置いて活動をしていますか。

黒田 まず一番大事にしているのが、ここが安心できる場で、私たちも含めて安心できる大人たちが寄り添ってくれる場所であるという事。そして、一人ひとりが違っていて当たり前なんだという事。もともとは演劇だからイコール表現なのですが、表現が上手くなつて欲しくてこの活動をしている訳ではなくて、人と関わることによって子ども達に変化したり、人それぞれ違っている、あの子のこういう所いいよね、そういうのを見つける活動なんだと思っています。



▲ Ten seeds ワークショップ「蜘蛛の巣」の様子

黒田 時には参加したくない子もいますよね。でも私たちがやっているのは、『つい参加したくなる』そういうことを最近はとても意識しながら活動しています。例えば、蜘蛛の巣みたいにビニール紐を部屋中に張り巡らせて、紐に触れないように潜り抜ける活動では、やりたくないと言っていた子にも、「ちよつとここ持ってた」とか、「ハサミ貸して」とか、その一言一言が実はやりとりになっていて、表現とか関わりが苦手だったりする子ども達も、短いフレーズの中できちんとコミュニケーションを取っている。『ついやりたくなるような』入口を一緒に探しながらやっていく、たらいいなと思っています。

新井 ワークショップへの参加の仕方も、いろんな関わり方を担保しておきたい。先ほどの「紐を持つてあげる」とか、それも参加だよねって、個を尊重した上でお互いに認め合う。ありがとうを言葉で言えたり態度で示せたり、積み重ねていくことによって人とながる喜びを少しずつ積み上げられるんじゃないかなと思う。「自立っていうのは、依存できる先をたくさん持つ事」自立支援の研究者 熊谷晋一郎さんの言葉です。自分で全部できることが自立と捉えてしまうと、それは誰もが苦しい。ちよつとずつお互いに頼っているんだ、ちよつとずつ支え合えるよ、ということとをワークショップを通じて言葉だけでなく、

からだの実感で伝えたいのです。この活動のいい所は、失敗がない事。もし本人が失敗したと感じても、誰かが助けてくれるし一緒に面白がれる、それも個性として認められる。そもそも成功・失敗って何？ちよつと視点をずらせば、失敗とか成功とか、こんなに価値観が変わる。そういった力がアートにはあるんじゃないかと思う。



▲ 新井さんリモートでのワークショップの様子

この状況下で、先日スマイリングルームと東京の新井さんの自宅をオンラインで繋いでワークショップを行ってみました。実際にやってみていかがでしたか。新たな発見などはありましたか。

新井 一番始めに大きな画面で部屋全体を映してもらって、画面の中央に出て来てね、とやったんですけれど…。いやあ、みんな出て来ない、出て来ない(笑)。恥ずかしいですからね。でも途中から、iPadを2人で1つ持った活動に移ると一転、積極的に参加してくれて。例えば表現しててくださいと言って指先だけちよつと動かしていたら凄く小さな表現だけど、iPadのカメラに向かっていると、とても大きな表現になりますよね。機器を通したからこそ小さな表現や表情を伝え合う事が出来て新鮮でした。そして画面上だと、それぞれ一人ひとりに同じチャンスが与えられている、平等と安心がある。席順も声



新井英夫 あらいひでお
(体奏家・ダンスアーティスト)

野口体操を学び、「力を抜く、お手本は自然界」という自然哲学に深い影響を受ける。1996年にDANCE-LABO KARADAKARAを創立、主宰。公演活動の両輪として、障がいのある方、乳幼児から高齢者まで幅広い方を対象に「からだからダンスを発見する」ワークショップを展開中。
国立音楽大学、立教大学非常勤講師。

Ten seeds テン・シーズ
(劇・あそび・表現活動)

演劇をベースとして乳幼児から高齢者、障がいのある方と共に創るプログラムを各地で展開している。演劇の可能性を信じ、町や人が元気になるための舞台づくりも行っている。代表の黒田百合は、アーラの市民ミュージカル『君といた夏』の演出を務めている。石川県七尾東雲高校演劇科非常勤講師。日本演出家協会会員。



や体の大きさも関係ない。オンラインならではのコミュニケーションの可能性も感じました。

成瀬 子ども達にとって、この小さなスマイリングルームでも非日常の体験ができる、まずそれが幸で。リモートでのワークショップでは、新井さんが何か指示を出されて子ども達が何かするようない、受け身の活動になるのかなと思っていたけれど、想像とは遥かに違っていた。子ども達の側から発信できる工夫がなされて、これが本当に良かった。あくまでも互いの関わり合いを大切にされているなど。スマイリングルームに通う子ども達の年齢はさまざまで、今回のワークショップでも小学2年生から中学3年生までいたけれど、全く同じ土俵で出来ていたのが本当に素晴らしい。みんな興味も関心も違う、発達段階も違っても、お互いがよい影響を受け合ってサポートし合える仕組みができるんじゃないかと感じました。そういう体験を通して、子ども達の中に自信とか自己肯定感が高まってくるのではないかなと感じました。

たまたまワークショップの日の午後、かつてスマイリングルームに在籍していた子が訪ねて来てくれていて。高校生になって生徒会にも入って頑張っているって。そういう大きくなって活躍しているOB・OGにも仲間に入ってもらおう事もできたらなと思っています。

一言で《不登校》と言っても、抱えているものはさまざま。リモートでの活動は、今後、スマイリングルームにも通えない子ども達への参加機会ともなり得ると感じます。そして何よりもスマイリングルームの先生方の子ども達に対する真摯な姿、その普段があつてこそより効果的な活動ができると思っています。これからも知恵を出し合いながら展開していけたらと思っています。

ALA PUBLIC ARTS CENTER
アラ発信 コミュニティプロジェクト
alaまち元気プロジェクト
2019年度レポート冊子完成！



★ みんなのディスコ
★ 日英国際交流事業 To See You, At Last
★ アーラ紙芝居一座
★ 多文化共生プロジェクト
★ 新日本フィルおでかけコンサート

人々が出会い、思い出を共有し、お互いを理解する。繋がることで新しい絆が生まれ、生きる活力が湧いてきます。2019年度レポート冊子は、市内公共施設に配布する他、開館後アーラ館内に設置、またwebサイトからも閲覧できます。今回の ala TIMES 特集取材では、活動のエピソードや今後の展望などもお話頂きました。紙面に掲載しきれなかった内容は、webサイトをご覧ください。



ala まち元気プロジェクト ▲
レポートwebサイトはこちら

市内在住 0～3才児と保護者対象

60代以上の方対象

『親子de仲間づくりワークショップ』

『ココロとカラダの健康ひろば』

後期日程 開催中止のお知らせ

10月から開催を予定しておりました上記2つのワークショップは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からやむを得ず中止と致します。楽しみにしてくださっていた皆さまには残念なお知らせとなってしまいますが、来年度また笑顔で再会できますことを心待ちにしております。

2020

10

Event Schedule

〈イベント・スケジュール〉

日	曜	開演時間	終演予定	催事名	入場	お問合せ先
ギャラリー						
19～22	月～木	10:00	17:00	洋服に描くステンシル 初日13:00から 最終日16:00まで	無料	山田珠予 0574-62-2806 090-5103-1018

・主催者都合により発行後内容が変更になる場合がございます。催しの詳細につきましては主催者にお問い合わせください。・8/1時点での申し込み状況を掲載しています。

〔センター内で開催される催しについて〕

- ・感染症拡大を予防するため、利用にあたっては丁寧な手洗い、手指の消毒を徹底し、マスクの着用、利用者間の間隔確保(できるだけ2m、最低1m)のご協力をお願いします。
- ・屋内での飲食は水分補給を除き禁止します。ごみが発生した場合は持ち帰りをお願いします。
- ・施設ご利用にあたっての「感染症拡大予防のためのガイドライン」は、最終ページに掲載の二次元バーコード②からご確認ください。

市民ミュージカル 君といた夏

～スタンドバイミー可児～

今年度 開催見送りのお知らせ

友情と絆の可児オリジナル市民ミュージカル『君といた夏 ～スタンドバイミー可児～』。劇場リニューアル・オープン後の2021年3月公演を目指し秋からの出演者オーディションに向けて参加者募集準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインに則り稽古から本番までプロジェクトを遂行させることが困難であると判断せざるを得ず、今年度の開催中止を決定致しました。

アーラの誇りそして財産の市民ミュージカル。冒険出発まで、もうしばらく時間が必要です。

館長エッセイ

essay

前を見て、遠くを見て —『君といた夏』は来年度に。

可児市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生

市民ミュージカル『君といた夏』について、6月初旬の会議ではコロナ禍の収まり傾向もあり、「実施」の方向で進めるとしていました。ところが7月に入つて東京で3000人を超える陽性者が出て、2週間ほどで全国的な広がりとなりました。「第二波」が想像以上に早く日本を覆い始め、中止を決断せざるを得ないことになりました。『君といた夏』は、人との「つながり」と「友情」と「家族」の大切さを太い幹とし、豊かなエピソードを枝葉として繁らせる可児発のオリジナル・ミュージカルです。「三密」「ソーシャル・ディスタンス」、「新しい生活様式」。人と人のつながりを避けなければならぬ環境が、私たちの「日常」になりつつあります。

だからこそいま、可児市民からの時代へのメッセージとして『君といた夏』を上演する意味がある、と思つていただけにとでも口惜しい気持ちです。こんな時代だからこそ、人と人のつながりは「希望」です。「何がある」とも、誰一人、孤立と孤独に陥らせないが、アーラの掲げてきた社会包摂型劇場経営のスローガンです。まさに『君といた夏』に流れている地下水脈のようなものです。ですから、ウィズ・コロナの「いま」、十分に感染予防をして上演する意味がある、と思つていたのですが…。

残念ではありますが、もう1年順延することになりました。そして、「コロナで棄損されたつながり」と「友情」と「家族」を取り戻すアフター・コロナへの可児からのメッセージとして『君といた夏』を声高らかに発信しようじゃありませんか。このメッセージは、後になるほど強いインパクトになると確信しています。コロナ禍を体験しただけに、『君といた夏』のメッセージに多くの人々の心が共鳴して、幅広い共感を呼ぶと思います。それまでは皆さん、しっかりと前を見て、遠くを見て、日々の営みを生きましよう。そして、必ずもう一度笑顔で集まりましよう。

市民ミュージカル『君といた夏』について、6月初旬の会議ではコロナ禍の収まり傾向もあり、「実施」の方向で進めるとしていました。ところが7月に入つて東京で3000人を超える陽性者が出て、2週間ほどで全国的な広がりとなりました。「第二波」が想像以上に早く日本を覆い始め、中止を決断せざるを得ないことになりました。『君といた夏』は、人との「つながり」と「友情」と「家族」の大切さを太い幹とし、豊かなエピソードを枝葉として繁らせる可児発のオリジナル・ミュージカルです。「三密」「ソーシャル・ディスタンス」、「新しい生活様式」。人と人のつながりを避けなければならぬ環境が、私たちの「日常」になりつつあります。

だからこそいま、可児市民からの時代へのメッセージとして『君といた夏』を上演する意味がある、と思つていただけにとでも口惜しい気持ちです。こんな時代だからこそ、人と人のつながりは「希望」です。「何がある」とも、誰一人、孤立と孤独に陥らせないが、アーラの掲げてきた社会包摂型劇場経営のスローガンです。まさに『君といた夏』に流れている地下水脈のようなものです。ですから、ウィズ・コロナの「いま」、十分に感染予防をして上演する意味がある、と思つていたのですが…。

残念ではありますが、もう1年順延することになりました。そして、「コロナで棄損されたつながり」と「友情」と「家族」を取り戻すアフター・コロナへの可児からのメッセージとして『君といた夏』を声高らかに発信しようじゃありませんか。このメッセージは、後になるほど強いインパクトになると確信しています。コロナ禍を体験しただけに、『君といた夏』のメッセージに多くの人々の心が共鳴して、幅広い共感を呼ぶと思います。それまでは皆さん、しっかりと前を見て、遠くを見て、日々の営みを生きましよう。そして、必ずもう一度笑顔で集まりましよう。

休館中の利用申請・開館後の利用ガイドラインについて

可児市文化創造センターは、大規模な改修工事を実施するため、2020年9月30日(水)まで休館しております。

◎主劇場、小劇場、レセプションホール、会議室(旧控室1)、控室(旧控室2)、演劇練習室、木工作業室は、引き続き改修工事のため2021年1月7日(木)まで使用できません。

※2021年1月8日(金)～10日(日)は、市行事およびメンテナンスのため、一般への貸出はございません。

休館中の利用申請 【受付窓口】 可児市役所 西館1F 【※土日祝を除く】
【受付時間】 9/1(火)～9/30(水) ⇒ 9:00～12:00

開館後の利用申請 【受付窓口】 可児市文化創造センター 【※火曜休館】
【受付時間】 10/1(木)～ ⇒ 9:00～21:00

利用を希望する年・月		受付期間
【劇場及びギャラリー等】	【その他の施設】	
2021年7～9月分	2020年10～12月分	受付中
2021年10～12月分	2021年1～3月分	
		【調整期間】2020年10月1日～10日 【通常受付】2020年10月21日～

※お電話での仮予約は、通常受付開始の翌日からとさせていただきます。

※2021年4月1日以降のご利用から利用料金を変更となります。⇒①

※施設ご利用にあたっては、感染症拡大予防のためガイドラインを確認・遵守ください。⇒②



①「新料金のお知らせ」



②「感染症への対応とご協力をお願い」

可児市文化創造センター

info@kpac.or.jp

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139
TEL.0574-60-3311 FAX.0574-60-3312※施設内レストランの営業は、
2021年1月からを予定しています。

休館日

(9/30(水)までの改修工事休館中)

▶電話対応は、平日9:00～17:00

(10/1(木)からの開館後)

▶火曜休館



facebook

